



人とのつながりを大切にしたい同好会活動を目指して

「人とつながり、共に高め合う研究活動」

同好会では、これまで、数多くの地域素材や今日的な課題に即した素材などを幅広く教材化してきました。また、こうした財産を生かし、教材開発の仕方や効果的な指導法などについて議論を積み重ねてきました。いよいよ、平成28年度には、全小社研名古屋大会において、同好会で積み重ねてきた授業研究の成果を、全国に向けて発信することになります。こうした機会に、先輩の会員と若い会員が、授業研究を通して、つながることで、共に高め合い、社会科教師としての力量を向上させていきたいと考えています。



【 4月全体会の様子 】

「人とつながり、友と学び合う研修活動」

同好会では、先輩と後輩、ベテランや若手、同じ年齢層といった会員が、社会科をベースに様々なことを語り合うことで、互いの力量を高めたり、人間関係を広げたりしてきました。様々な人々と出会い、つながることで、教師としての力量を向上させるだけでなく、友として、互いに学び合うことができる仲間と出会うことができるのも、同好会活動の魅力です。友とのつながりを深め、社会科教師として、互いに学び合っていきたいと考えています。

以上のように、4月の全体会では、「人とつながる」をキーワードに、今年度の研究活動や研修活動について提案しました。

詳細は、同封しました「活動計画基本案」に記してあります。ご一読いただき、今年度の同好会活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

【第252号 紙面】

人とのつながりを大切にしたい同好会活動を目指して・・・・・・・・・・(p1)

4月全体会 ご講演 名古屋市社会科同好会会長
上野小学校長 渡辺 博之 先生・・・・(p2・3)

「声」4月全体会に参加して・・・・・・・・・・(p4)

今年度の研究推進について、研究部会のメンバー紹介・・・・・・・・(p5)

今後の予定、「同好会ひろば」編集方針・・・・・・・・・・(p6)

4月全体会 ご講演

「ともに生き合う社会科同好会 その2」

名古屋市社会科同好会会長 上野小学校長 渡辺 博之 先生

4月23日(木)にイーブルなごやにおいて、4月全体会が行われ、140名を超える会員の先生方が参加しました。同好会会長の渡辺博之先生に、先生のご経験を踏まえ、ともに生き合う社会科同好会について、ご講演していただきました。

< 2種類の実践研究 >

自分が指導体験記録を書いていた頃のことです。5年生の研究グループに所属していました。その時の副部長の先生が、2種類の実践研究の取り組み方についてお話をされました。一つは、資料をしっかりと集めてから実践計画を練る方法で、他人の3倍くらい資料を集めてきて取り組むものでした。もう一つは、自分の考えた実践計画に必要な資料を集める方法で、単元の構想を練って、それから必要な資料を集めてくるものでした。



副部長の先生は、後者の取り組みのよさを、「自分のやりたいことが明確になっている」とおっしゃいました。また、「集めた資料は使いたくなくなる。教材研究がよくできると、授業で子どもに多くの資料を提示したくなくなってしまふ。そうすると、自分の実践にぶれが出やすい」ともおっしゃいました。私は後者の方法で取り組みましたが、実際にやってみると、構想を練る段階がすごく大切で、多くの時間が掛かりました。この方法で授業力を高めることができたのではないのでしょうか。

< 語彙規定 >

意味の似た言葉に、「気付く」「つかむ」「捉える」「分かる」「理解する」があります。その違いを明確にして使っているかという話を、指導法1回生の時に指導者の先生から言われました。その先生は私たちに投げ掛けをされるも答えを教えてください、他の人はどうやって使っているのかと、ずっと思ってきました。ただ、意識して使い分けている人は余りおらず、語感の好みで使っている人が多かったように思います。私も、その時の指導者の先生のように答えを言いませんので、皆さんも五つの言葉の違いを考えて使ってくださいね。

このような例は、たくさんあります。例えば全小社研で話題の、「協働」と「参画」です。この二つの言葉は「レベルが違う」というご指摘を受けました。では、レベルがどう違って、意味がどう異なるのでしょうか。それが説明できるとすてきですね。また、「イメージ」という言葉もよく使われます。イメージとは何でしょうか。「あなたの思うイメージと私の思うイメージは違いますよ」と言うことがあります。そのような違いも考えていけるとよいでしょう。特に、自分でよく使う言葉については、説明ができないといけません。ただし、質問されて答えるのではなく、自分の書いた文章を読んだ人に分かってもらえる内容になっていることが一番すばらしいです。

<接続詞>

指導法2回生の時の指導者の先生に、「接続詞を使ってはいけない」というご指導をいただいたことがあります。その先生は、「接続詞を使っているのは接続詞に頼っているからである。使い方を知って使う分には構わないが、そうではないであろう。特に一番いけないのは、“しかし”“けれども”“だが”である。このような逆説の言葉は、安易にを使ってはいけない。それまで述べてきたことを全部否定することになる」とおっしゃいました。接続詞を使わないと文章が書きづらく、とても苦勞しました。指導者のお考えに納得しましたが、よい方法が見つかりませんでした。どうしようと悩んだ時には、「子どもたちはこのような良さ、意欲・能力をもっている。“ただ”自分で方法を考えて調べる姿は余り見られない」というように、“ただ”を使うなどの工夫をしました。あいまいな表現ですので、皆さんはもっとよい言い方を考えてほしいと思います。

<守・破・離>

研究員になった時に、「守・破・離」という言葉をセンターの指導主事の先生から教えていただきました。「守」とは、師匠の型を守り、まねをすることです。「まねる」は「学ぶ」につながり、基礎・基本を忠実に身に付けることです。そして、その型を自分と照らし合わせて研究していくと、自分に合ったよりよいと思われる方法が出てきます。少し工夫するということです。それにより既存の型を破る段階へと進んでいきます。これが



「破」です。最終的には師匠の型、自分が作り出した型の両方に立脚して、型から離れていく「離」になります。「自分流」や「自分らしさ」が出来上がるのです。

教師に当てはめるなら、新卒の頃や指導体験記録を書いている頃は「守」に当たります。この時期は、基礎・基本を大切にして先輩の実践や手立てをまねし、失敗を繰り返しながら反省して、子どもと一緒に成長していく時期です。次に、研究員に応募している時期は、「破」に当たります。自分の研究の方向が少しずつ定まってきます。ある先輩から「指導体験記録を書くことは過去を語ること。研究員論文を書くことは未来を語ること」「研究員は錐のように一点を突いていくこと」というお話を伺いました。自分の研究に人とは違う工夫、味付けをしていくのです。そして、研究員の一年間が「離」だと思います。一年間の研究員生活で、「離」までたどり着かないと意味がないでしょう。ただ、研究員は最終目標ではないので、その後も「離」に磨きを掛けていってほしいですね。それは、後輩の指導を通して、自分自身に磨きを掛けていくことです。

「三流は人の話を聞かない。二流は人の話を聞く。一流は人の話を聞いて実行する。超一流は人の話を聞いて工夫する」とおっしゃる方がみえます。私たちも心掛け次第で超一流になれるのです。まず何よりも人の話を聞く「素直さ」が大切です。「アドバイスを素直に聞く人ほど進歩が速い」とおっしゃる方もみえます。「素直さ」を大切にしてください。皆さんの力で、「ともに生き合う社会科同好会」を実現し、平成28年度の全小社研名古屋大会を大成功に導いていきましょう。



4月全体会に参加して

4月全体会では、多くの参加者から、本年度の同好会活動やご講演に対する「声」が寄せられました。

寄せられた「声」の中から一部を紹介させていただきます。

◆今年度の同好会活動について

○ 平子小学校 岡 沙織 先生

今年度初めて、社会科同好会に参加させていただきました。知り合いもないので、どのようなことをしたり、どのように会が進んでいったりするのかが分からなくて不安でしたが、活動基本案の内容等もとても分かりやすくてよかったです。ありがとうございました。

○ 東山小学校 吉田 陵司 先生

人とのつながりを大切にしたい同好会活動ということで、若い年代だけでなく、経験豊富な先生方から学べる機会が増えることをとても楽しみにしています。授業づくりに力を入れ、様々な工夫を考え、取り入れながらよりよい授業づくりを目指していきたいと思います。そのために、今年一年の同好会活動を大切にしていきたいと思います。

◆ご講演を聞いて

○ 野跡小学校 前原 憂輝 先生

渡辺先生のご講演は、今後、社会の授業をどのように進めていこうかという方針が固まる大変勉強になるものでした。特に、2種類の実践研究では、渡辺先生のような実践研究を、あらゆる教科で行っていかうと思えるものでした。ありがとうございました。

○ 川名中学校 稲垣 芳章 先生

渡辺先生は、「さ・し・す・せ・そ」を実践しているとお話されていましたが、全てにおいて児童・生徒に還元されるものだと感じました。また、超一流までの人を紹介されていましたが、おっしゃる通りだと感じ、生徒指導時においても話せる内容だと思いました。自分一人では気付くことのできなかった内容や考え方、知識を得ることができました。自分なりに生徒に伝える際には、「守・破・離」を実践してみたいと思いました。

今年度の研究推進について

研究は昨年度までと同様、研究推進部員の先生を中心に行っていきませんが、その他の先生方にも、ぜひ各グループの推進部会や小・中学校部会へ積極的に参加していただき、今年度の研究についての議論を深めていただきたいと思います。

(※ 各グループの推進部会の開催日時・場所については、各担当事務局までお問い合わせください。)

研究部会のメンバー紹介

「小学校部会」

(敬称略)

| グループ | 3年生グループ | 4年生グループ | 5年生グループ | 6年生グループ |
|-------|---|--|---|---|
| 部長 | 嶋崎大作 (星ヶ丘小) | 安西佳弘 (八社小) | 塚本昌夫 (明倫小) | 寺阪昌也 (楠小) |
| 副部長 | 岡本慎二 (東志賀小) 大西大介 (相生小) | 加藤理恵 (長根台小) 山本健悟 (引山小) | 山中俊武 (福田小) 山口喬史 (橘小) | 酒井拓也 (八社小) 佐藤清彦 (中島小) |
| 推進部員 | 木田泰助 (猪高小) 奥井祥太 (南陵小) 平松隼人 (老松小) 横井耕一郎 (港楽小) | 後藤康宏 (新栄小) 服部友香 (大手小) 大賀信明 (旭出小) 中村陽子 (栄生小) 石原純貴 (八事小) | 脇田佐知子 (西山小) 下村芳敬 (瀬古小) 永井 亮 (白金小) 中村友紀 (笠東小) 土田佑紀 (伝馬小) 石垣成一 (陽明小) 掛川尚哉 (大磯小) 下村康大 (下志段味小) 藤岡義哲 (下志段味小) | 星 英智 (千種小) 浅井義人 (穂波小) 小池良亮 (緑小) 近藤真未 (明德小) 岩田圭司 (東山小) 中村真子 (明正小) 本間英明 (千鳥小) 三上 信 (浦里小) 溝口浩太 (田代小) |
| 担当事務局 | 梅村 元 (道徳小) 室井紀之 (陽明小) | 植村宏明 (稲永小) | 浅野 進 (なごや小) 村瀬隆広 (宝南小) | 古橋大悟 (葵小) |

「中学校部会」

(敬称略)

| グループ | 地理的分野グループ | 歴史的分野グループ | 公民的分野グループ |
|-------|--|---|---|
| 部長 | 奥村茂雄 (長良中) | 宮松徳和 (久方中) | 関 真輔 (大江中) |
| 副部長 | 牧原 晃 (一柳中) | 松本剛秀 (白山中) | 早川若仁 (御田中) |
| 推進部員 | 安福洋可 (港南中) 内海 聡 (原中) 森 智成 (楠中) 塚田一生 (富士中) | 宇都宮俊之 (原中) 有我 悟 (伊勢山中) 服部 樹 (日比野中) 竹村詩子 (猪子石中) 布藤 勇 (香流中) | 久々野将広 (豊正中) 浦野 光 (宝神中) 西脇 佑 (丸の内中) 森本敬憲 (城山中) 沼山季代典 (菊井中) |
| 担当事務局 | 高橋直樹 (はとり中) | 伊藤嘉浩 (天白中) | 立野淳一 (大森中) |



今後の予定

6月23日（火）6月全体会 18:30～ ルブラ王山（白帝）

第54回 全国小学校社会科研究協議会研究大会名古屋大会 プレ大会 社会科講演会

ご講演 演題「これからの社会科授業づくり」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井 陽介 先生

社会科の授業づくり、次期学習指導要領改訂の方向性等について学ぶことができます。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください！

7月24日（金）小学校部会 18:30～ 愛知県スポーツ会館

中学校部会 18:30～ 愛知県スポーツ会館

各学年・分野グループの1学期の実践のまとめを発表します。推進部員以外の先生方も大歓迎です。熱い学び合いに、ぜひご参加ください！

8月4日（火）授業力アップ研修グループ全体会 18:30～ 愛知県スポーツ会館

- 各研修グループの発表
- ご講演 社会科同好会研修部会長
六郷北小学校長 戸田 一 先生

授業力アップ研修グループのメンバー同士で楽しく交流し合います。
人とのつながりを広げるため、ぜひご参加ください！

※ 多数の先生方のご参加をお待ちしています！



「同好会ひろば」編集方針

今年度の「同好会ひろば」は、キャッチコピーを「人とのつながりを大切にしたい同好会ひろば」としました。紙面を通して、会員の先生方同士がつながり、ともに学び合い、高め合う様子を伝えていきたいと考えています。

また、小・中部会の活動内容や、全小社研名古屋大会に向けた動向なども、随時、伝えていく予定です。

「人とつながる」同好会活動が実現できるよう、今後、全体会、授業力アップ研修グループ、各研究部会などで、意見用紙の記入やインタビューなどにご協力いただきたいと思います。よろしくお願いたします。